

(個別研修) 菊井 妙子

- 研修テーマ：①子供のリハビリや治療の実際について学ぶ**
②成長段階に合わせた看護師の支援方法と家族への支援の実際について
③病院で働く多職種とのチーム連携について

研修先：National Children's Hospital (ベトナム ハノイ)

研修日：6月5日～6月9日

- 目的：①Surgical Cardiac Intensive Care Unit/ Surgical Intensive Care Unit に訪問し、治療の実際について学ぶ
②看護師支援の実際について

内 容

- ・心臓専門医 Dr. Tadinh Hoan より話を聞く。
- ・National Children's Hospital は、国内最大の小児心臓病センターの1つである。
- ・先天性心疾患の小児に安全で効果的な手術を行うには、外科医、麻酔科医、心臓専門医、看護師など、可能な限り最高のスキルを備えた包括的なシステムが必要であると話される。
- ・先天性心疾患の原因は、染色体異常・遺伝子異常・環境因子などさまざまな要因があるが、中でも地域によっては少なからず、枯葉剤（ベトナム戦争の影響が、ひ孫世代の第4世代にまで障害を残している）の影響を受けている場合もあるとのことだった。
- ・病床数は24床あり、常に満床。入室患者は新生児から乳児期までの患者がほとんどであり、心臓専門医 Dr が管理している。
- ・1部屋は4～5人部屋であり、看護師は日勤・夜勤ともに1部屋を受け持つ。急性期病棟のため、薬剤準備やラインの入れ替え、ドレーン抜去などの処置も多く、状態が不安定な患者の対応など、看護師はスタッフ同士が協力しケアを行っていた。
- ・術後合併症予防のために2時間毎の体位変換、吸入、用手換気後の吸引、皮膚トラブルを起こさないようにテープの巻替えを行うなど、術後の管理は細かく決められていた。
- ・Dr の回診は毎日あり。治療方針について医師が話し合い、看護師に必要なことは伝達されていた。また、看護師からも患者の状態に対する質問など意見交換が行われていた。
- ・月曜～金曜まで1～4件/日の術後の入室あり。術後は呼吸器装着やモニター管理されており、機器類の音が常にしているため、ベッドサイドでは音楽を流し患者に不安を与えないように工夫されている。
- ・Surgical Intensive Care Unit の患者は状態が落ち着くと、母の24時間付き添いが可能となる。子供は手術後の慣れない環境に不安を感じ、またチューブやラインなどにより思うように動くことができないストレスにさらされるため、母と一緒に過ごし落ち着ける状態を作るためである。



研修先：National Children's Hospital の外観
外来・検査室・手術室・入院病棟など 12 階まで
ある

Surgical Cardiac Intensive Care Unit/ Surgical Intensive
Care Unit 入口：ロックがかかっており、インターホン
を鳴らして入るようになっている



使用されている人工呼吸器：e360